

# アジア女性基金ニュース NO.10

1998年3月18日

財団法人女性のためのアジア平和国民基金（略称・アジア女性基金）

理事長 原文兵衛／編集・発行＝アジア女性基金事務局

TEL.03-3583-9346 FAX.03-3583-9347 / 107-0052 東京都港区赤坂2-17-42 赤坂アネックス  
URL;<http://www.awf.or.jp> e-mail;info@awf.jp / 郵便振替口座 00180-3-71164

韓国・台湾・フィリピン 元「慰安婦」の方々約100人から申請

## 「償い金」等のお届け60人超える

アジア女性基金は、これまでに、「慰安婦」にされた被害者60人以上の方々に「償い金」などをお届けしました。新聞広告などで「事業」のお知らせをし、それ実施に入った韓国・台湾・フィリピンの方々です。これらの地域では約100人の方々から申請があり、必要な手続きを経てこの人数の方々にお届けしました。

どの地域でいつ何人に実施したかについては、アジア女性基金は、ご本人たちのプライバシーを守る等のため、当面、公表を差しひかえさせていただきます。

### 韓国で事業の内容を伝える新聞広告

アジア女性基金は1月6日（火曜日）、韓国で発行されている2社の新聞に、「基金」の事業をお知らせする広告を掲載しました。すぐに「基金」には直通の電話によって問い合わせや意見が寄せられ、担当者が対応しています。

### 1月6日、韓国日報・ハンギョレ新聞など4紙に

広告を掲載した新聞は韓国日報、ソウル経済新聞、日刊スポーツ（以上韓国日報社発行・各日刊）とハンギョレ新聞（ハンギョレ新聞社発行・日刊）の計4紙です。

各紙とも1ページ大（全15段）、韓国語表記（内容・体裁は同一）です。

広告内容には、1)広告するにあたっての理事長あいさつ、2)お届けする理事長の手紙、3)総理



「ハンギョレ新聞」「韓国日報」などに掲載した  
「アジア女性基金の広告」

の手紙、4)「基金事業」の説明（図と文）、5)国民からのメッセージ、6)事業の対象者、申請期間、手続き方法の説明を主としています。

広告を掲載した趣旨は、事業内容の正確な情報を伝えすることです。誤解や憶測にもとづく報道などによって、これまでに「基金」を受け取られた元「慰安婦」の方々がつらい目にあわれている状況もあり、事業内容を正しく理解していただくためです。

（1）【事業の周知】 韓国でひろく一般向けに「基金」事業についてお知らせするのは、これが初めてです。そのため広告は、アジア女性基金「事業」について具体的に、正確に知っていただく内容としました。アジア女性基金がお届けする事業内容などを、ひろくお知らせすることは、「基金」懸案の課題でした。 （2ページにつづく）

(1 ページからつづく)

(2)【誤解、疑問に答える】 アジア女性基金に対する批判には、誤解にもとづく批判が少なくありません。例えば、「総理の手紙」は個人の手紙にすぎない、政府が医療・福祉支援事業のため支出するのは虚偽、「基金」のお金は汚い金である、等です。広告は、これらの誤解や疑問を解いていただくよう事実説明をしたものです。

(3)【被害者の意思により実施】 韓国での事業は1997年1月11日から実施過程に入っています。97年1月に韓国でお届けして以降も、お一人からでも受け止める意思が伝えられれば、「基金」は、早くその気持ちに応えて実施する、との基本姿勢をもっておりまます。実際、この間にも韓国の「慰安婦」とされた方などから相当数、「基金」に対して問い合わせや受け取りたいとの意思も伝えられました。

### 基金事業の概要について (韓国紙広告冒頭に掲載=1面関連)

財団法人女性のためのアジア平和国民基金(略称・アジア女性基金)は、先の戦争において「従軍慰安婦」とされて名誉と尊厳を傷つけられ、心身にわたり癒しがたい傷を負われた方々に対するお詫びと深い反省に立って、1995年7月、日本政府と国民の協力により発足しました。

アジア女性基金は、これらの元「慰安婦」の方々に対し日本国民の募金により償い金をお届けする事業および日本政府の拠出による医療・福祉支援事業を実施しています。それとともに、いわれなき暴力や差別など今日なお存在する女性の名誉と尊厳にかかわる問題の解決にも積極的に取り組んでいます。

いわゆる「従軍慰安婦」問題が提起されて以降、日本国内では、多数の女性の名誉と尊厳を傷つけたこの問題に対し、日本政府および国民としてどのような誠意ある対応が可能か、また望ましいか等について真剣な議論が繰り返されました。その結果、すでに結ばれている諸条約を前提としつつ、日本政府のみの対応でなく、幅広く国民の参加を求めて国民的な償いの気持ちを表していくとの趣旨から、戦後50年という歴史の節目において、アジア女性基金が設立されました。

## インドネシアで「高齢者社会福祉施設」開所式

初年度5カ所、2年度は6カ所を予定

インドネシアでアジア女性基金が協力してつくられた高齢者福祉施設の開所式に、1月7日、山口副理事長が出席、また同国社会省次官らと事業に関して会談しました。

この事業は、インドネシアでの「慰安婦」問題について日本政府と国民が心からのお詫びと反省を表すため、現状で可能な基金事業として協力し、同国社会省が1996年度から実施している高齢者福祉事業です。97年3月に覚書を交わし、高齢者福祉

このような考え方と共に鳴る多数の国民からこれまで約4億8000万円の募金が真心のこもったメッセージとともにアジア女性基金に寄せられています。また、日本政府は、アジア女性基金の活動を財政面をふくめ全面的に支援するとともに、基金の事業が行われる折り、日本政府を代表してこの問題に関して改めて心からのお詫びと反省の気持ちを表す内閣総理大臣の手紙を元「慰安婦」の方々お一人お一人にお届けしています。

アジア女性基金は、発足以来、元「慰安婦」の方々や関係者の方々との対話を積み重ね、これまでに韓国、フィリピン、台湾で約100名の元「慰安婦」の方々から申請があり、50名以上の方々にアジア女性基金の事業を受け入れていただいております(注・1月段階)。しかし、残念なことに、本基金の事業についていまだにさまざまな誤解や憶測があり、十分に理解されていないのも事実です。今回、まずもって本基金の設立の趣旨や事業の内容をみなさまに正確に知っていたことが重要と考え、この広告を出しました。今後みなさまとのさらなる対話を通じて、日本国民の誠意ある償いの気持ちを一人でも多くの方に理解していただき、お伝えできることを切に希望しております。

財団法人女性のためのアジア平和国民基金  
理事長 原 文兵衛



開所式であいさつする山口理事（メダン）  
施設5カ所が完成、その一つ、北スマトラのメダン  
の施設開所式に至ったものです。

開所式は1月9日行われ、インドネシア政府から  
社会福祉研究開発庁長官・スウェイグニヨ総局長、ヌ  
グロホ広報部長らが、また日本政府側から細本メ  
ダン総領事、鈴木メダン副領事らが出席しました。

メダンに新設された施設は2人部屋3、3～4  
人部屋1、台所1、バスルーム2の間取り。車イス  
6台、応接セット3、冷蔵庫、洗濯機がそろえられ  
ていました。

この事業の規模は10年間で3億8000万円の供  
与であり、同社会省は初年度5カ所につづき2年  
度には6カ所を予定。基金との覚書では、「慰安婦」  
が多く存在していた地域に優先的に建設する、と  
しています。その情報をインドネシア側はもって  
おらず、選定は難しいとのことでしたが、基金とし  
ては当初の覚書にそって場所、入居者等を決めて  
くれるよう改めて要請しました。また、事業の推移  
をアジア女性基金として把握するため、年次レ  
ポートには基金に必要な情報を盛るように要請し  
ました。

## アジア女性基金を評価

——M・ロビンソン国連人権高等弁務官

2月に来日したメアリー・ロビンソン国連人権  
高等弁務官は、同27日、日本記者クラブで会見し、  
アジア女性基金が元「慰安婦」に一時金支払いを進  
めていることについて、「(日本が)より責任を認め  
る方向で手続きが始まっており、支持したい」と改  
めて評価する発言をしました。来日前ジュネーブ  
の会見で「基金」を評価する発言をし民間団体から  
批判されましたが、再びこのように語ったもので  
す。

同弁務官は、あわせて、「時間が経っている上に、  
強い証拠があつて立件されているわけではない。  
それでもこういう形で進んでいるのだから、癒さ  
れる効果はあると思う」と述べました。

## 募金約4億8220万円に

アジア女性基金へ皆様方から寄せられた募金の  
総額は、3月現在、約4億8220万円になっていま  
す。ふかく感謝申し上げます。

## ごあいさつ

——伊勢 桃代  
専務理事・事務局長

27年間の国連での仕事を終え、昨年の9月より  
アジア女性基金で働くことになり、もう6カ月が  
経ちます。大変たくさんの方々のご指導とご協力  
を得ながら、このような仕事に携わさせていただき  
ました。

基金での仕事をお引き受けした基本的な理由は、  
長年にわたり日本という国を外から見て、やはり、  
なんとか第二次世界大戦のけじめをつけることの  
重要性を身にしみて感じていたからだと思います。

元「慰安婦」の方々が高齢に達しておられる事  
実から、基金一同は、償い事業の迅速な実施に全  
力を尽くしております。基金のプログラムを受け  
たいと自主的に申し込まれた方々への実施が、政  
治的その他の制約によって、遅れる場合のあるこ  
とは残念ですが、時間がひっ迫している現在、ご  
本人の意思で申し込まれる方々に、人道的な面か  
ら、皆様の強い支持をいただきたいと思います。

事務局の体制づくりを一層進め、償いの事業と  
並ぶもう一つのしごと——今日的な女性問題、と  
くに紛争または争いに巻き込まれた女性の諸問題  
をしっかりと取り上げることのできる組織として  
発展させていきたいと思います。

皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

**職務経歴** 1969年から国際連合ニューヨーク本部に  
勤務。経済社会開発担当官後、研修人事政策部長、国  
際連合大学事務局長を勤め、1997年3月定年退職。  
在職中、人事研修国連機構等の会議議長を務める。

慶應義塾大学卒、社会学専攻。シラキュース大学、  
マックスウェル大学院修士号取得。ハーバード大学  
で比較文化研究に従事、コロンビア大学都市計画修  
士号取得。アメリカ反貧困政策プログラムで働く。  
ニューヨーク市政府で反貧困プログラムで連邦政府  
へ事業報告書担当。

&lt;今日の女性人権事業&gt;

# 女性と子どもの人身売買と性的搾取の根絶を

フィリピン政府子どもの人権特別委員会との共催で、アジア女性基金は昨年11月、マニラで右の国際会議を開きました。熱心な報告と討議を経て、女性と子どもの人身売買と商業的性的搾取に対抗する行動に向けた提言が行われました。

- 女性と子どもの人身売買と商業的性的搾取に関するマニラ会議
- 1997年11月6-7日  
フィリピン・マニラ

## 13か国から60人参加

1996年8月にスウェーデンのストックホルムで開かれた「子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議」で採択された行動計画をうけ、アジア地域のフォローアップ会議と位置づけたこの国際会議には、13か国から政府と民間支援団体双方から約60人が参加。日本からは、ストックホルム会議の政府代表をつとめた参議院議員、清水澄子さんらが出席、アジア女性基金からは有馬真喜子副理事長(当時)が出席しました。この会議には、ESCAP、国際労働機関、UNICEF、ECPATなどと共に開かれ、各国际機関の協力を得ています。

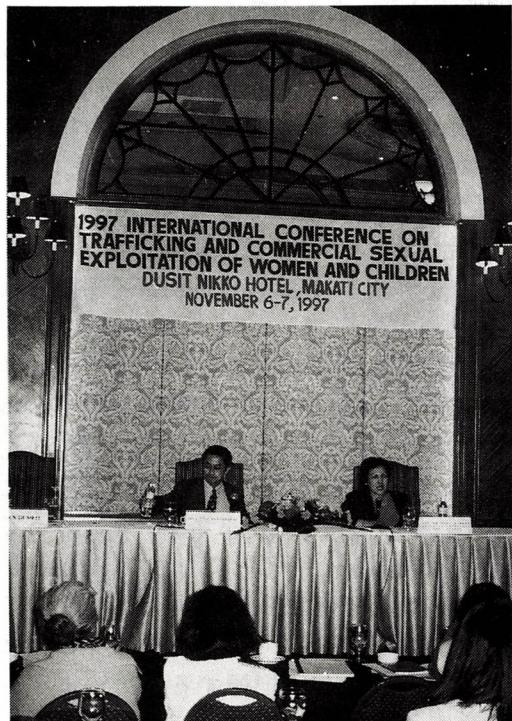
清水議員は与党プロジェクトの取り組みについて報告し、この分野での日本の取り組みは遅れているが、議員立法でなんとか法的規制を進めたいと決意を述べました。タイの上院議員サイスリー氏、チュラロンコン大学のムンタボーン教授、フィリピンのグチャレス検事、ECPATのアミハン氏らの専門家の基調報告や討議が行われ、提言がまとめられました。

提言の要点は、つきのとおりです。

### [マニラ会議提言]

○女性と子どもの売買と商業的性的搾取は世界的に増加している。犠牲者の権利と生命をひどく脅かしており、国内・国際レベルでの協力を通じた早急な対抗行動が求められている。

○対抗行動を導くためには、すでにさまざま国際法的規制文書があり、これらの批准、効果的な実施、監視が必要である。これら文書は、この問題に対する施策に関して包括的な枠組みを提供するものである。(国連人身売買禁止条約1949、国連人権委員会「子ども買春および子どもボルノ防止行



国情の違いを認めながら共通の問題について  
討議を重ねた(マニラ)

動計画」1992、国連人権委員会「人身売買防止行動計画」1996、女子差別撤廃条約、子どもの権利条約、北京会議行動綱領、ストックホルム世界会議行動計画など)

○NGOがこの問題の根絶に果たしている重要な貢献を認識し、また各国の発展段階等の事情により優先順位が異なりうることを認識する。

○国境を越えたこの問題については国内・国際双方での遂行の意欲と関心が高まっていることは疑いがない。より効果をあげるため、連絡しながら重複をさけて行動する必要がある。

\*アジア女性基金は、1996年8月にも、埼玉、東京、京都で「女性の人権とは」をテーマにして国際会議を開催しました。

# 基金に拠金してくださいました

## 理解され円滑にすすむように

本来、日本政府が「償い」は行うべきだと思いますが、さまざまな政治的な制約のなかで呼びかけ人の方々や役員の方々が、苦汁のなか、事業を進めておられることに感じ入っておりまます。韓国など各國政府の対応に困難もあるようですが、少しでも理解が進んで、事業が円滑に進展することを期待しております。もっと活動をPRしてください。(川崎市・男性)

少額で申し訳ありませんが、継続することを大事にしていきたいと思います。(八王子市・男性)

街頭募金行動でお預りした分です。少額ですが気持ちのこもったものです。お役に立ててください。「基金」の事業が多くの国民の理解を得られるよう、今後とも取り組みを期待しております。(大阪・市民グループ)

## ほんとうの被害者を特定して

インドネシアのジャワ島で従軍しました。マスコミが騒ぐほど強制買春や強姦が多かったではないと断言できます。しかし、スマラン慰安所事件の示すように、絶無だったとは言えないと思います。ほんとうの被害者を特定し、援助されんことを願います。(東京調布市・男性)

4回分の出張の日当です。少しですけど送金します。(東京大田区・男性)

多分、公的補償と民間の基金は両輪で必要なものなのでしょう。(京都府・男性)

少しですが基金に加えさせてください。真の仲良し社会が創られていくとよいですね。そう望んでいます。(熊本市・男性)

## 笑顔がもどるよう祈る

少額ですが、お役に立てば幸いです。償いにはほどとおいとしても、かの人たちの笑顔が戻ることを祈っています。(栃木県黒羽町・女性)

戦死した叔父の分の特別弔慰金というものを手にしました。いま私は、生まれた時代と国に恵まれて幸せに暮らしておりますので、少しでもアジアの女性のためにと思い、送金させていただきます。(長崎市・女性)

「従軍慰安婦」にされた方々への償いのために2(パンフレット)のうち拠金者からのメッセージは正直な庶民の気持ちだろうと思います。(一部の)代議士のいろいろな問題になる発言は、選挙での有利さを目当てで、そのような人を選出する有権者の多くいることが問題で、自虐史観などという人は落選されればいいのですが、民主主義は多数決だから仕方ないのかもしれません。(豊橋市・男性)

今朝の新聞によると、似非愛国者たちの教科書攻撃が激しいようです。また、その反対側には、この基金を正しくないと批判する人たちもいます。(その中で)この基金にお金を送る人たちの気持ちは本物だと思います。困難なことがとても多いですが、がんばってください。(八王子市・男性)

少しですが、ボーナスをもらったので、送ります。(豊田市・男性)

## 妨害だけは止めてほしい

アジア女性基金ニュース9号拝見しました。日本でも各国でも種々の意見があるのは当然ですが、やっぱり被害者本人の気持ちが大事です。これを妨害するのだけは止めてほしいものです。この世を去る前に少しでも補償になればと願うものです。(東京豊島区・男性)

終戦まで外地おりましたので、当時の実情はわかっております。些少な基金としてください。犠牲になられた方々のお年を考えると、一日も早い国の償いが必要と思います。(佐賀県伊万里市・男性)

必ず近い将来に日本政府の責任で補償してください。当然のことだと思います。(枚方市・女性)

父が他界いたしましたので、香典の一部を寄付させていただきます。(松江市・男性)

領収書を送ってください。少額ですが少しでもお役に立てればと思います。(栃木県・女性)

# 皆様からのメッセージ

*CONVERSATION* ——アクセスしてください。

アジア女性基金ホームページ； <http://www.awf.or.jp>

アジア女性基金Eメールアドレス； [info@awf.or.jp](mailto:info@awf.or.jp) / [dignity@awf.or.jp](mailto:dignity@awf.or.jp)

# ■アジア女性基金発行の資料・書籍

## ○《リーフレット》

「従軍慰安婦」にされた方々への償いのために/さらに今日的な女性問題の解決のために 1995  
——「慰安婦」問題などアジア女性基金の活動についてのQ&Aなどを掲載

## ○《パンフレット》

「従軍慰安婦」にされた方々への償いのために 1995.10.25.  
——アジア女性基金の基本資料  
「呼びかけ文」と総理「ごあいさつ」「従軍慰安婦」にされた人々/基金ができるまで/基金のしごと  
付=呼びかけ人、役員、運営審議会委員/募金の送金方法/英訳「呼びかけ文」

## ○《パンフレット》

「従軍慰安婦」にされた方々への償いのために② 1996.9.5/改版1996.11.25.  
——1996年8月のフィリピンでの「事業」開始を特集  
はじめに/総理の手紙/理事長の手紙/フィリピンで「事業」を開始3人のことば/マリア・ロサ・ルナ・ヘンソンさんのプロフィル/拠金者からのメッセージ/フィリピンの支援団体・アジア女性基金に関する委員会/フィリピンでのお知らせの内容/フィリピンの報道  
アジア女性基金の活動・募金の推移/募金の送金方法  
付(英文・英訳文)=総理の手紙/理事長の手紙/拠金者からのメッセージ/アジア女性基金に関する委員会(フィリピン)/アジア女性基金の活動

## ○《パンフレット》

女性のためのアジア平和国民基金  
——写真記録を軸にしてアジア女性基金の歩みを収録  
アジア女性基金とは/お詫びと償いと…  
「慰安婦」に対する事業/医療・福祉支援事業/歴史の教訓とする事業  
/今日的な女性問題への取り組み/資料

## ○《書籍》

「慰安婦」関係文献目録  
財団法人女性のためのアジア平和国民

## 基金編集 ぎょうせい発行 定価2730円

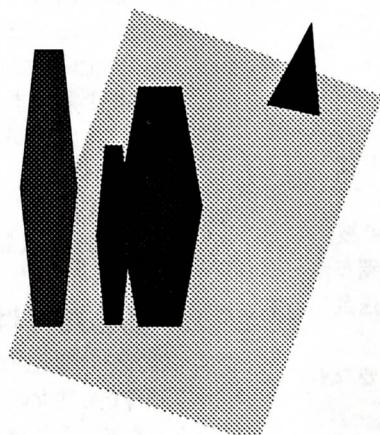
1997.9.30

——国内で出版された書籍、雑誌に発表された論文、体験記などの目録を収録。書籍・論文名を英訳して掲載

## ○《資料》

1996.8 Asian Women's Fund International Forum ,at United Nations University, Tokyo

\*Women's Rights as Human Rights 1996.8 アジア女性基金フォーラム報告書  
・同訳「女性の人権とは」



## ○《資料》

・「子どもの性的搾取撲滅への挑戦—子どもの買春問題等への各国の取組みに関する調査研究」報告書 阿部浩己 1997.3  
・「いわゆる『援助交際』に対する女子高校生の意識および背景要因の分析研究」報告書 福富護 1997.3

「子どもの商業的性的搾取に反対する国際会議」1996.8 ストックホルムへの報告書

(仮訳=財団法人女性のためのアジア平和国民基金)

・子どもの性の商品化と搾取一心身に与える影響 1996  
・社会の価値基準とCSEC(子どもの商品化と搾取) 1996  
・観光旅行と子ども売春 1997  
・児童に対する性的搾取 調査の改善と被害者保護 1996

・スウェーデンにおける子どもオンブズマン 1996

・変革の力としての教育 1996

・子どもの性の商品化と搾取に対抗する行動 英国政府(内務省)報告書 1996

・性を搾取する者 ECPAT 1996

・子どもボルノ 国際的展望 1996

・子ども犠牲者の予防と心理的・社会的リハビリテーション 1996

## ○《資料》

国連女性の地位向上部 女性移住労働者に対する暴力に関する専門家会議 マニラ 1996.5.

(仮訳=財団法人女性のためのアジア平和国民基金)

・軍事主義一フェミニストの視点から見た女性に対する暴力 ネリア・サンチョ クリストーナ・ゲイツ 1996

・女性労働者に対する暴力—その問題の諸相 国連事務局政策調整および持続可能開発局女性の地位向上部 1996

・移住労働者のエンパワーメント戦略と調整 ダイバ・K・スタシリウス 1996

・女性移住労働者に対する暴力—フィリピンの現実を見る マリア・アルセスティス・アブレーマンガハス 1996

・女性移住労働者に対する暴力—送出国・受け入れ国の問題 ナスラー・M・シャー 1996

## ○《委託事業資料》

・国際移住機関「日本での性的搾取を目的とした女性のトラフィッキングの実態」—フィリピン女性に関する調査結果 1996.3

\*International Organization for Migration(IOM) Trafficking in Women to Japan for Sexual Exploitation--A Survey on Case of Filipino Women, 1996.3

・東京医科歯科大学難治療疾患研究所「犯罪被害者の心理と援助—援助者の研修のために—」1996.3

国際労働機関(ILO)資料 1996.2

・アジア女性の国際的な移住労働—目だった特徴と政策の問題 リン・リーン・リム オオイシ・ナナ

## \*書名50 音順

赤瓦の家 朝鮮から来た従軍慰安婦 川田文子 1994.1 単行本 87.2. 筑摩書房 ちくま文庫  
 アジア太平洋戦争韓国人犠牲者補償請求事件訴状 ハッキリ会編 1992. 日本の戦後責任をハッキリさせる会  
 アジアの子どもと買春 ロン・オグレディ 京都YMCAアート訳 1993.3. 明石書店  
 アジア太平洋地域における女性の人権と法的地位 サピットリ・グナセケラ 1996.8. アジア女性基金  
 アジアの中の日本軍—戦争責任と歴史学・歴史教育 笠原十九司 1994.9. 大月書店  
 アジアの民主化と女たち 伊従直子(いよりなおこ) 1994.10. 明石書店  
 アジア女性交流史 山崎朋子 1995.4. 筑摩書房  
 アジアの戦争被害者たち—証言日本の侵略 伊藤孝司写真・文 1997.4. 草の根出版会  
 アジアの声第一集 侵略戦争への告発 戦争犠牲者を心に刻む会編 1987.3. 東方出版  
 あなた朝鮮の十字架よ 歴史詩集従軍慰安婦 張貞任 金知栄 1992.8. 影書房  
 A Modern FORM of Slavery HRW, USA 1993.12.  
 ある日本軍「慰安婦」の回想 フィリピンの現代史を生きて マリア・ロサ・ルナ・ヘンソン 藤目ゆき訳 1995.12. 岩波書店  
 慰安婦たちの太平洋戦争・沖縄編 間に葬られた女たちの戦記 山田盟子 1992.6. 光人社  
 慰安婦たちの太平洋戦争 山田盟子 1991.9. 光人社  
 「慰安婦」への償いとは何か—国民基金を考える 戦後補償キャンペーン 大島孝一ほか編 1996.3. 明石書店  
 「慰安婦」問題 Q&A アジア女性資料センター編 1997.4. 明石書店  
 ドキュメント「慰安婦」問題と教科書攻撃 俵義文 1997.6. 高文研  
 いま学びたい近現代史 梅田欽治・佐藤伸雄編 1997.4. 教育史料出版会  
 インドネシア兵補の訴え 日本インドネシア兵補協会編著 1993.4. 梨の木舎  
 インディアスの破壊についての簡潔な報告 ラス・カサス 染田訳 1976.6. 岩波書店 岩波文庫  
 インドネシア—多民族国家の模索 小川忠1993.8. 岩波書店 岩波新書  
 インパクション102 編集部 1997.4. インパクト出版会  
 ウサギたちが渡った断魂橋 からゆき・慰安婦の軌跡 上下 山田盟子 1995.5. 新日本出版社  
 海渡る恨 勝山泰佑写真集 勝山泰佑 汐文社(韓国)  
 援護五十年史 厚生省社会・援護局 1997.3. ぎょうせい  
 オキナワ戦の女たち 朝鮮人従軍慰安婦 福地曠昭 1992.8. 海風社

沖縄戦 朝鮮人軍夫と従軍慰安婦 版画集 儀間比呂志 1995.8 清風堂書店  
 沖縄の帝王 高等弁務官 大田昌秀 1996.1. 朝日新聞社  
 沖縄県民斯ク戦へり—大田實海軍中将一家の昭和史 田村洋三 1994.3. 講談社  
 汚辱の近現代史 いま克服のとき 藤岡信勝 1996.10. 徳間書店  
 終りなき海軍 若い世代へ伝えたい残したい 松浦敬紀編著 1978. 文化放送  
 終りなき戦後—証言と記録 東京新聞編 1994.10. 東京新聞出版局  
 女のネットワーキング 横浜女性フォーラム編  
 女のグループ活動資金のつくり方 横浜女性協会  
 女たちの太平洋戦争 朝日新聞社編 1996.9. 朝日新聞社  
 女たちがつくるアジア 松井やより 1996.9. 岩波書店 岩波新書  
 陸海軍軍事年鑑 軍人会館出版部編 日本国書センター  
 かくて昭和史は甦る一人種差別を叩き潰した 日本 渡部昇一 1995.5. クレスト社  
 漢口慰安所 長沢健一 元漢口兵站指令部・軍医大尉 1983.7. 図書新聞社

きみには関係ないとか—戦争と平和を考えるブックリスト 90-96 京都…連絡会編 1997.6. かもがわ出版  
 金学順さんの証言「従軍慰安婦」問題を問う 解放出版社 1993.2. 解放出版社  
 強制連行と従軍慰安婦「戦争と平和」市民の会 平林久枝編 1992.5. 日本国書センター共同研究 日本軍慰安婦 吉見義明 林博史 1995.8. 大月書店  
 教科書が教えない歴史 藤岡信勝 自由主義史観研究会 1996.8. 産経新聞社  
 「教科書危機」理解のために—資料集 産経新聞社 1996.8. 産経新聞社  
 教科書が教えない歴史② 藤岡信勝 1996.12. 産経新聞社  
 教科書が教えない歴史 3 藤岡信勝 自由主義史観研究会 1997.5. 産経新聞社  
 教室で語りあつた戦争責任—平和の主体が育つ近現代史の授業 久保田貢 1997.2. かもがわ出版  
 玉砕しなかった兵士の手記 横田正平 1988.7. 草思社  
 「近現代史の授業改革」批判 宇佐美寛・池田久美子 1997.7. 黎明書房  
 近現代史の真実は何か—藤岡信勝氏の「歴

## ■アジア女性基金に備えている書籍・資料—①

韓国とディベートする 韓国を徹底的に論破する 北岡俊明 1996.10. 総合法令  
 韓国から見た日本の歴史教育 李元淳 1994.8. 青木書店  
 韓国・朝鮮人BC級戦犯者の国家補償等請求訴状 編  
 韓国へ、怒りと悲しみ 豊田有恒 1996.5.2. 文藝春秋  
 韓国・反日症候群 黒田勝弘 1995.3. 亜紀書房  
 韓国併合 海野福寿 1995.5. 岩波書店 岩波新書  
 完全版 三光 中国帰還者連絡会編 1984.5. 晚報社  
 韓日条約の再検討と東北アジア秩序 韓国アジア社会科学研究所 1996.3. 同研究所  
 消えた細菌戦部隊—関東軍七三一部隊 常石敬一 1981 増補1989 文庫1993 筑摩書房 ちくま文庫  
 聞け!血涙の叫び 旧台湾出身日本兵秘録 基佐江里編著 旧日本軍軍人軍属遺族救助基金会出版局  
 きけわだつのこえ—日本戦没学生の手記 日本戦没学生記念会編 1982. 初版1949. 東大出版会 岩波書店 岩波文庫  
 期待と回想 鶴見俊輔 1997.8. 晶文社  
 北朝鮮の旅—届かないこころ 畑中康雄 1997.2. 技術と人間

史教育・平和教育」論批判 藤原彰・森田俊男編 1996.1. 大月書店  
 クマラスワミ報告と慰安婦問題 千葉大学法学論集第11巻第2号 秦郁彦 1996.10. 千葉大学  
 軍隊慰安婦 戦争と人間の記録 金一勉編著 1992.2. 徳間書店  
 検証・朝鮮植民地支配と補償問題 朝鮮人強制連行真相調査団編 1992.8. 明石書店  
 現代の慰安婦たち—軍隊慰安婦からシャバユキさんまで 白杵敬子 1983.11. 徳間書店  
 検証 従軍慰安婦 従軍慰安婦問題入門 上杉千年 1993.7. 全貌社  
 検証・日韓会談 高崎宗司 1996.12. 岩波書店 岩波新書  
 皇軍慰安所の女たち 川田文子 1993.8. 筑摩書房  
 國際法からみた「慰安婦」問題 國際法律家委員会 明石書店  
 國際ボランティア活動 D・ウッドワース ジャパンタイムズ  
 國益の立場から 渡部昇一 1996.10. 徳間書店  
 國際化時代の民族教育 高賀侑 1996.6. 東方出版  
 獄中十九年—韓国政治犯のたたかい 徐勝 1994.7. 岩波書店 岩波新書

# アジア女性基金の歩み

## ● 1995年

- 6月14日 五十嵐官房長官(当時)、女性のためのアジア平和国民基金の事業、政府の取り組み、「よびかけ人」の名簿を発表
- 7月18日 呼びかけ人の「よびかけ文」、村山総理(当時)「ごあいさつ」発表
- 7月19日 女性のためのアジア平和国民基金が発足、東京都港区に事務所開設
- 8月1日 設立のつどい
- 8月11日 政府、アジア女性基金の事業に協力する旨、閣議了解
- 8月15日 新聞などで呼びかけを行い、募金活動を開始
- 9月22日 募金総額5000万円に
- 11月10日 前後に中央紙・ブロック紙・地方紙に「募金協力呼びかけ」を掲載
- 11月27日 日本記者クラブ主催記者会見に、原文兵衛理事長、平林博外政審議室長らが出席
- 12月6日 募金総額1億円を超える
- 12月8日 女性のためのアジア平和国民基金に財団法人許可(総理府・外務省共管)
- 12月22日 国会議員による「女性のためのアジア議員連盟」(三塚博会長)が発足
- 12月25日 アジア女性基金への寄付が指定寄付金等(所得の控除)に指定され官報に公示

## ● 1996年

- 1月22日 対話チームがフィリピン、台湾を訪問
- 2-3月 中央紙・ブロック紙・地方紙に募金呼びかけの新聞広告
- 3月8日 募金総額が2億円を超える。テレビ情報番組でアジア女性基金広報・募金協力を求める
- 4月9日 国連人権委員会(ジュネーブ)傍聴に和田事務局長出張
- 5月中旬 在京の韓国報道記者、日本記者とそれぞれ懇談
- 6月24日 来日韓国記者団と懇談
- 6月4日 200万円を下回らない償い金、医療・福祉・住宅等の個人支援事業を決定、作業部会設置を決める
- 6月13日 募金総額4億円を超える
- 7月19日 第1グループ3カ国・地域について償い金一律200万円、医療・福祉の個人支援事業10年で7億円規模実施を決定。3カ国・地域同時開始を合意
- 7月末より 韓国、台湾、フィリピンへ対話チーム訪問
- 8月5-6日 「女性の人権とは」国際フォーラム(東京)、続いて京都で開催
- 8月11日 下村理事、国連人権小委(ジュネーブ)傍聴
- 8月14日 フィリピンで認定された4人の元「従軍慰安婦」

に「総理の手紙」・償い金等をお届け。フィリピン、マニラと東京で記者会見し発表

外務省招待韓国プレスと懇談

東京新宿区内で、アジア女性基金の活動についての集会

基金指定寄付等(所得控除)97年3月31日まで延長改訂(官報)

フィリピンで「アジア女性基金に関する委員会」正式発足

「慰安婦」関係資料委員会発足

基金大阪集会、有馬副理事長ほかが出席

9日に基金償い金等を受ける表明をした韓国人元「従軍慰安婦」から理事長に同趣旨の書簡届く

理事会で韓国、台湾での償い金等を、年内にもお届けする方針を確認

12月24日 この日までに、韓国から、7人が理事長あてに受け取り意思を伝える書簡

## ● 1997年

- 1月11日 韓国で7人の元「従軍慰安婦」の方々に償い金等のお届け実施。東京の記者会見で公表
- 1月15日 フィリピン政府社会福祉開発省との間で医療・福祉支援事業実施について覚書締結
- 3月25日 インドネシア社会省との間で高齢者社会福祉事業実施についての覚書締結
- 3月 基金の指定寄付金等(所得控除)延長公示
- 3月下旬 募金を呼びかける新聞広告(中央・地方紙)
- 3月30日 国連人権委員会(ジュネーブ)に林運営審議委員が出張
- 4月21日 来日韓国報道記者と懇談
- 5月2日 台湾で償い金等の事業内容とその実施について新聞広告掲載。台北市と東京で記者発表在京の台湾報道関係者と懇談
- 5月13日 伊勢桃代事務局長就任
- 8月1日 韓国で10数人が「基金」受けると報道
- 8月18日 フィリピンでマリア・ロサ・ヘンソンさん死去
- 8月27日 橋本総理招待により官邸で原文兵衛理事長ほかが懇談
- 10月15日 衛藤・有馬副理事長が退任、山口達男・金平輝子副理事長就任
- 10月28日 在京韓国報道関係者と懇談、大沼・和田呼びかけ人、伊勢専務理事(事務局長)出席
- 11月6-7日 マニラで「子ども買春」国際フォーラム開催
- 12月16日 韓国で金學順さん死去

## ● 1998年

- 1月6日 韓国の日刊新聞4紙にアジア女性基金の「事業」内容を伝える広告掲載
- 1月9日 インドネシア、メダン(北スマトラ)高齢者社会福祉施設開所式に山口副理事長出席
- 3月2日 国連婦人の地位委員会(ニューヨーク)に有馬理事、橋本委員が出張